

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

①満期保有目的証券……償却原価法によっている。なお取得価額と債券金額の差額について、重要性の乏しいものについては、取得原価法によっている。

②その他有価証券 …… 期末日の市場価格等に基づく時価法によっている。

(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

最終仕入原価法によっている。

(3) 固定資産の減価償却方法

固定資産………定額法によっている。

(4) 引当金の計上基準

賞与引当金………職員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期に相当する金額を計上している。

(5) 消費税の会計処理

消費税の会計処理は、税込方式によっている。

2. 特定資産の増減額及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
管理基金運用引当預金	270,000,000	140,000,000	270,000,000	140,000,000
管理基金運用引当有価証券	2,032,960,749	780,892,460	435,905,148	2,377,948,061
預け金(管理基金)	769,266	202,209,283	202,209,283	769,266
事業基金運用引当預金	30,000,000	200,000,000	130,000,000	100,000,000
事業基金運用引当有価証券	3,343,817,324	1,327,536,266	1,212,231,291	3,459,122,299
預け金(事業基金)	0	823,972,714	763,972,714	60,000,000
合 計	5,677,547,339	3,474,610,723	3,014,318,436	6,137,839,626

3. 特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
特定資産				
管理基金運用引当預金	140,000,000	—	(140,000,000)	—
管理基金運用引当有価証券	2,377,948,061	—	(2,377,948,061)	—
預け金(管理基金)	769,266	—	(769,266)	—
事業基金運用引当預金	100,000,000	—	(100,000,000)	—
事業基金運用引当有価証券	3,459,122,299	(400,000,000)	(3,059,122,299)	—
預け金(事業基金)	60,000,000	—	(60,000,000)	—
合 計	6,137,839,626	(400,000,000)	(5,737,839,626)	0